

研究タイトル	「平和とは何か」を問い続ける授業の考案 ～高校生が提案する 21 世紀の平和教育～
要旨	<p>本研究は、「平和を問い続ける授業」が生徒の「平和」の捉え方を拡張し、「Active Citizen の育成」が平和の実現に寄与する資質・能力を育てるという 2 つの仮説と、仮説の授業案への表現に関し、効果と限界を明らかにすることを目的とする。授業案への表現は、教育研究と教育現場の乖離を踏まえて行い、中学 3 年社会科歴史的分野を対象に、シベリア抑留を題材として 5 点の資料を作成した。検証では授業実践が困難であるため、教育に関わる方々を対象に 2 段階の調査を行った。検証の結果、仮説は授業内外で平和について考える契機を与え、多面的・多角的な学びをもたらすなどの効果がある一方、「アクション」の定義などの限界が明らかになった。また、授業案への表現は、その意義はあるものの、単元前後の意識づけや学習活動の難易度設定に限界があることが示された。次年度はワークショップを開催し、学生の視点から仮説の検証を行う。</p>